

天平勝宝七歳乙未二月、相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

遠江国	7首 / 18首
相模国	3首 / 8首
駿河国	10首 / 20首
上総国	13首 / 19首
常陸国	10首 / 17首
下野国	11首 / 18首
下総国	11首 / 22首
信濃国	3首 / 12首
上野国	4首 / 12首
武蔵国	12首 / 20首
84首 / 166首	

昔年防人 ... 8首
合計 92首

国名判明	雑歌 5	上総 1首 下総 1首 常陸 2首 信濃 1首	東海道 東山道
	相聞歌 76	遠江 2首 駿河 5首 伊豆 1首 相模 12首 武蔵 9首 上総 2首 下総 4首 常陸 10首 信濃 4首 上野 22首 下野 22首 陸奥 3首	東海道 東山道
	譬喩歌 90	遠江 1首 駿河 1首 相模 3首 上野 3首 陸奥 1首	東海道 東山道
国名不明 140	雑歌 相聞歌 防人歌 譬喩歌 挽歌	17首 112首 5首 5首 1首	
合計		230首	

「群馬の万葉歌」

群馬県立女子大学教授 北川和秀

富士見村 高齢者中央教室

平成十九年十一月二日
富士見村中央公民館

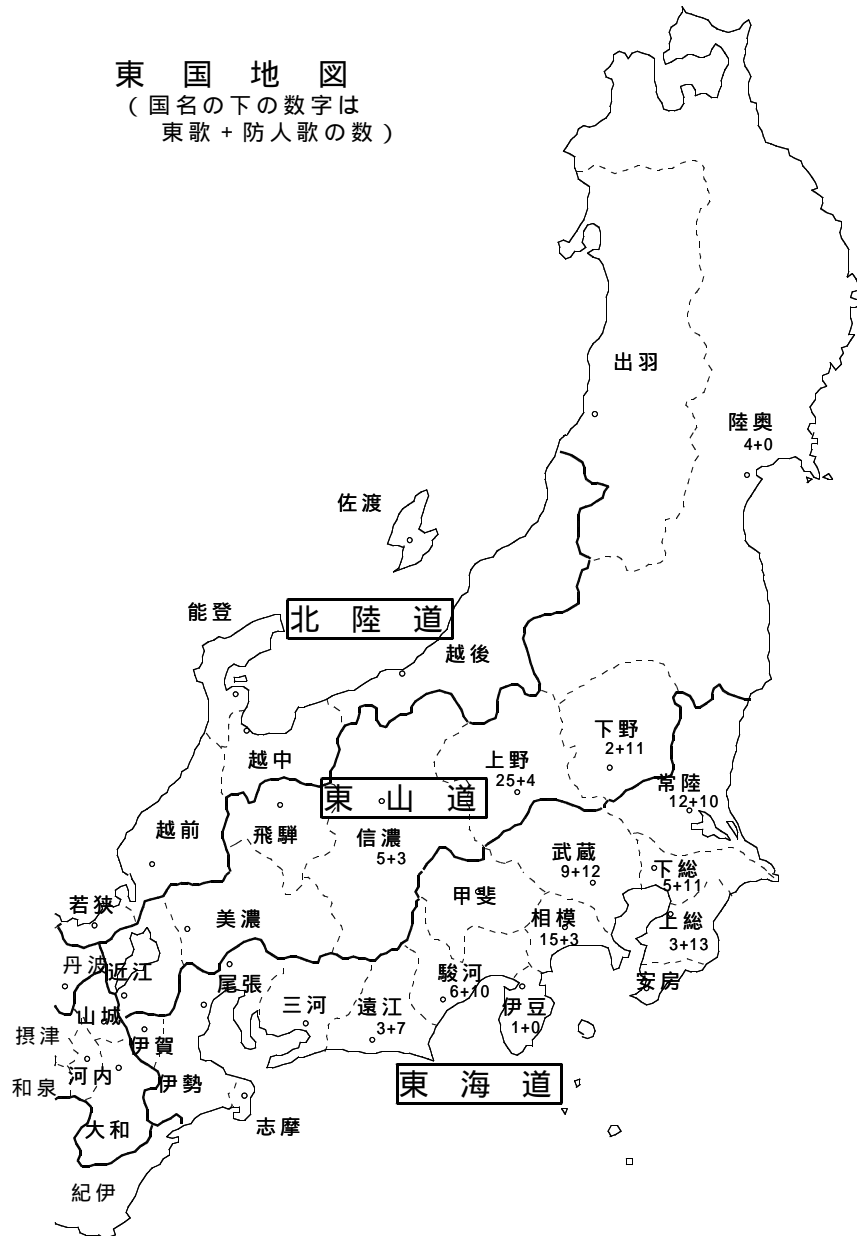
日本紀宝亀一・一〇・二七

参考

太政官奏すらく、武蔵国は山道に属ると雖も、兼ねて海道を承けたり。公使繁多くして祇供堪へ難し。その東山の駅路は上野国新田駅より下野国足利駅に達する。此れ便道なり。而るに枉りて上野国昆楽郡より五箇駅を経て武蔵国に到り、事畢りて去る日に、また同じき道を取りて下野国に向ふ。今東海道は、相模国夷参駅より下総国に達するまで、その間四駅にして往還便ち近し。而して此を去り、彼に就くこと、損害極めて多し。臣ら商量するに、東山道を改めて東海道に属らば、公私所を得て、人馬息ふこと有らむ」とまうす。奏するに可としたまふ。続

東国地図

(国名の下に数字は東歌+防人歌の数)



3414 伊香保の八尺の井手に立つ虹の頭ろまでもさ寝をさ寝ては

伊香保の高い井堰の上に現れる虹がはつきりと見えるように、そのようにはつきりと二人の仲が明らかになってしまっほど一緒に寝ていられたらなあ。

3417 上毛野伊奈良の沼の大藺草外に見しよは今こそ益れ

上野国の伊奈良の沼に生えている(まだ刈り取る前の)大藺草と同じように、あなたのことを傍らから見ていただけの頃よりも、恋人同士になった今の方が恋心は増していますものを。

3418 上毛野佐野田の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも

上野国の佐野のたんぼの苗を使った占いで結婚を決めました。今さらどうにかできましようか。(できないでしよう。)

3420 上毛野佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ

上野国の佐野の舟橋をばらばらにしてしまつように、親は二人を引き離しますけれど、私はあなたと離れたりしませんよ。

3421 伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ

伊香保の峰に雷よ鳴ってくれますな。私にとっては別にどうということはないのですが、あの娘が怖がるものでね。

3422 伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり

伊香保風は、吹く日も吹かない日もあると言いますけれども、私があなたを思う恋心ばかりは、止むときがありません。

* 参考「韓亭能許の浦波立たぬ日はあれども家に恋ひぬ日はなし」(三六七〇番)

3423 上毛野伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり

上野国の伊香保の峰に降る「雪」ではありませんが、たやすく「行き過ぎる」とができない、あなたの家のあたりよ。

上野国の可能性のある歌

3494 子持山若鷄冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ

子持山の若いカエデの葉が秋になって色づくまで、あなたと共寝をしていたいと私は思います。あなたはどう思います？

3540 左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足掻きを速み言問はず来ぬ

左和多里の乙女に出逢ったけれど、私が乗る赤毛の馬の歩みが速いので、言葉を交わさないまま来てしまいました。

上野国の防人歌

4404 難波道を行きて来までと吾妹子が着けし紐が緒絶えにけるかも

右の一首は、助丁上毛野牛甘のなり。

右の一首は、朝倉益人のなり。

4406 わが家ろに行かも人も草枕旅は苦しと告げ遣らまくも

右の一首は、大伴部節麻呂のなり。

4407 ひな曇り碓日の坂を越えしだに妹が恋しく忘れぬかも

右の一首は、他田部子磐前のなり。

二月二十三日に、上野国の防人部領使大目正六位下上毛野君駿河が進める歌の数は十二首なり。但し拙劣なる歌のみは取り載せず。